

四半期報告書

(第68期第2四半期)

自 平成25年7月1日
至 平成25年9月30日

ダイソーケミックス株式会社

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	5
(7) 議決権の状況	6

2 役員の状況

6

第4 経理の状況

7

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11

2 その他

15

第二部 提出会社の保証会社等の情報

16

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年11月14日
【四半期会計期間】	第68期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	ダイトケミックス株式会社
【英訳名】	Daito Chemix Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役 執行役員社長 二 宮 榮 規
【本店の所在の場所】	大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号
【電話番号】	06（6911）9310（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員管理部担当 永 松 真 一
【最寄りの連絡場所】	大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号
【電話番号】	06（6911）9310（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員管理部担当 永 松 真 一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 第2四半期連結 累計期間	第68期 第2四半期連結 累計期間	第67期
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高（百万円）	4,354	4,245	8,411
経常利益又は経常損失（△） （百万円）	△451	91	△886
四半期純利益又は四半期（当期） 純損失（△）（百万円）	△594	75	△1,379
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	△627	137	△1,138
純資産額（百万円）	8,597	8,200	8,062
総資産額（百万円）	13,066	12,476	12,483
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期（当期）純損失 金額（△）（円）	△55.34	6.99	△128.32
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	65.7	65.6	64.5
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	733	276	18
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△24	88	150
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△225	△129	△143
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	970	766	534

回次	第67期 第2四半期連結 会計期間	第68期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 7月1日 至平成25年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 （△）（円）	△22.55	20.22

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、第67期第2四半期連結累計期間および第67期は、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期（当期）純損失金額であるため記載しておりません。また、第68期第2四半期連結累計期間は、潜在株式は存在するものの、希薄化効果を有していないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、第1四半期連結会計期間において、DAITO CHEMIX(CHINA)CO.,LTDは、清算終了いたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和策などを背景に、企業収益が改善し、個人消費も改善傾向が見られるなど景気は緩やかに回復しつつあります。しかしながら、依然として欧米諸国の財政問題や中国、その他新興国経済の景気下振れリスクは存在し、原油高や原材料価格の上昇も懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中で当社グループは、積極的な営業活動や、先端の半導体用感光性材料、フラットパネルディスプレイ周辺材料、機能性材料、プリンター用記録材料、医薬中間体の新製品開発の促進、廃棄物処理の特殊技術開発などに取り組みました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は42億45百万円（前年同四半期比2.5%減）、経常利益は91百万円（前年同四半期は、経常損失4億51百万円）、四半期純利益は75百万円（前年同四半期は、四半期純損失5億94百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

化成事業

当事業の売上高は、前年同四半期比1.0%減の36億7百万円となりました。

①感光性材料及び印刷材料

液晶用感光性材料は、需要低迷により販売数量、売上高ともに減少いたしました。半導体用感光性材料は堅調に推移いたしました。また、開発品のディスプレイ用材料の販売が増加いたしました。

この結果、感光性材料及び印刷材料の売上高は、前年同四半期比0.6%増の27億59百万円となりました。

②写真材料及び記録材料

モニター用液晶パネル材料の売上は、在庫調整局面を抜け、販売数量、売上高ともに増加いたしました。また、インスタントフィルム用材料は、需要が増加し、販売数量、売上高ともに増加いたしました。

この結果、写真材料及び記録材料の売上高は、前年同四半期比94.3%増の5億円となりました。

③医薬中間体

医薬中間体は、既存主力製品の販売数量、売上高が減少したこと、開発品の試作が減少したことにより販売数量、売上高ともに減少いたしました。

この結果、医薬中間体の売上高は、前年同四半期比38.4%減の2億96百万円となりました。

④その他化成

販売数量、売上高ともに減少いたしました。

この結果、その他化成の売上高は、前年同四半期比67.9%減の51百万円となりました。

環境関連事業

当事業の売上高は、前年同四半期比10.4%減の6億37百万円となりました。

産業廃棄物処理分野につきましては、一部主要顧客の工場稼働率が低下し、受託量、売上高ともに減少いたしました。化学品リサイクル分野につきましては、溶剤リサイクルが低調に推移し、受託量、売上高ともに減少いたしました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は7億66百万円となり、前年同四半期末比2億3百万円減少いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果増加した資金は、2億76百万円（前年同四半期連結累計期間は7億33百万円の増加）となりました。これは主に売上債権の増加1億52百万円、税金等調整前四半期純利益83百万円、減価償却費2億61百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果増加した資金は、88百万円（前年同四半期連結累計期間は24百万円の減少）となりました。これは主に貸付金の回収1億26百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果減少した資金は、1億29百万円（前年同四半期連結累計期間は2億25百万円の減少）となりました。これは主に社債の償還1億99百万円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業上および財務上の対処すべき課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、3億72百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	47,900,000
計	47,900,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成25年9月30日）	提出日現在発行数 （株） （平成25年11月14日）	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	11,400,000	11,400,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	11,400,000	11,400,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 （株）	発行済株式総 数残高 （株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金増 減額 （百万円）	資本準備金残 高（百万円）
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	—	11,400,000	—	2,901	—	4,421

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
ダイトケミックス社員持株会	大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号	523	4.59
東京応化工業(株)	川崎市中原区中丸子150番地	522	4.58
日本生命保険(相)	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	499	4.38
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	482	4.23
竹中 一雄	東京都東大和市	475	4.17
富士フイルム(株)	東京都港区西麻布二丁目26番30号	439	3.85
(株)三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	371	3.25
ダイトケミックス取引先持株会	大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号	368	3.23
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町一丁目13番2号	247	2.17
日本精化(株)	大阪市中央区備後町二丁目4番9号	201	1.76
計	—	4,129	36.22

(注) 当社は自己株式650千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため、上記の大株主から除いております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 650,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 10,665,000	10,665	—
単元未満株式	普通株式 85,000	—	—
発行済株式総数	11,400,000	—	—
総株主の議決権	—	10,665	—

（注）「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式179株および証券保管振替機構名義の失念株式が200株含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合（%）
（自己保有株式） ダイトーケミックス(株)	大阪市鶴見区茨田大宮 三丁目1番7号	650,000	—	650,000	5.70
計	—	650,000	—	650,000	5.70

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	534	766
受取手形及び売掛金	1,933	2,085
商品及び製品	719	684
仕掛品	659	675
原材料及び貯蔵品	554	488
その他	286	109
流動資産合計	4,688	4,810
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,094	1,999
機械装置及び運搬具（純額）	807	698
土地	2,991	2,991
その他（純額）	109	90
有形固定資産合計	6,002	5,779
無形固定資産	5	4
投資その他の資産	1,787	1,882
固定資産合計	7,795	7,665
資産合計	12,483	12,476
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	338	362
1年内償還予定の社債	407	306
短期借入金	1,000	500
1年内返済予定の長期借入金	242	355
未払法人税等	11	16
賞与引当金	155	137
その他	524	413
流動負債合計	2,679	2,093
固定負債		
社債	1,189	1,091
長期借入金	225	750
引当金	78	20
その他	248	321
固定負債合計	1,741	2,182
負債合計	4,421	4,275

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,901	2,901
資本剰余金	4,421	4,421
利益剰余金	761	837
自己株式	△350	△350
株主資本合計	7,734	7,809
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	270	341
繰延ヘッジ損益	4	0
為替換算調整勘定	42	38
その他の包括利益累計額合計	316	379
新株予約権	11	11
純資産合計	8,062	8,200
負債純資産合計	12,483	12,476

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	4,354	4,245
売上原価	4,268	3,801
売上総利益	86	443
販売費及び一般管理費	※ 549	※ 409
営業利益又は営業損失 (△)	△463	34
営業外収益		
受取利息	7	0
受取配当金	12	11
持分法による投資利益	3	15
為替差益	—	34
受取保険金	21	0
雑収入	10	28
営業外収益合計	55	90
営業外費用		
支払利息	21	23
為替差損	9	—
雑損失	12	10
営業外費用合計	43	33
経常利益又は経常損失 (△)	△451	91
特別利益		
固定資産売却益	1	—
特別利益合計	1	—
特別損失		
固定資産除却損	45	—
減損損失	42	—
投資有価証券評価損	40	8
その他	10	—
特別損失合計	137	8
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 (△)	△588	83
法人税等	6	8
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△594	75
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△594	75
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△594	75
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△36	71
繰延ヘッジ損益	△2	△4
為替換算調整勘定	3	△17
持分法適用会社に対する持分相当額	2	13
その他の包括利益合計	△32	62
四半期包括利益	△627	137
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△627	137
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△588	83
減価償却費	364	261
投資有価証券評価損益(△は益)	40	8
固定資産除却損	45	—
減損損失	42	—
前払年金費用の増減額(△は増加)	5	3
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△0	1
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	9	△31
受取利息及び受取配当金	△19	△12
支払利息	21	23
持分法による投資損益(△は益)	△3	△15
売上債権の増減額(△は増加)	1,046	△152
たな卸資産の増減額(△は増加)	△34	85
仕入債務の増減額(△は減少)	△138	24
その他	△38	11
小計	751	291
利息及び配当金の受取額	13	12
利息の支払額	△21	△24
法人税等の支払額	△11	△3
営業活動によるキャッシュ・フロー	733	276
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△22	△41
貸付金の回収による収入	1	126
その他	△2	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24	88
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	200	△500
長期借入れによる収入	—	800
長期借入金の返済による支出	△136	△160
社債の償還による支出	△199	△199
リース債務の返済による支出	△67	△68
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△21	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△225	△129
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	483	232
現金及び現金同等物の期首残高	487	534
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 970	※ 766

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法の適用の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、DAITO CHEMIX (CHINA) CO.,LTDは清算したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(役員退職慰労引当金)

当社は、役員の退職慰労金の支給に充てるため、役員退職慰労引当金を計上しておりましたが、平成25年5月9日開催の取締役会において、役員退職慰労金制度を廃止することを決議し、平成25年6月25日開催の定時株主総会において、同制度廃止までの在任期間に対応する退職慰労金を当社の定める一定の基準に従い相当額の範囲内において打切り支給することとし、支給時期についてはそれぞれの退任時とすることが決議されました。

これに伴い、前連結会計年度において固定負債の「引当金」に含めていた役員退職慰労引当金62百万円を当第2四半期連結累計期間において全額取崩し、支給に伴う未払額37百万円を、固定負債の「その他」に含めて表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

船舶火災による訴訟の件

平成16年10月に地中海で発生した船舶火災に関し、当社が製造した製品を、定期コンテナ船を通じて海外に輸送しようとしていた国際的な商社（以下「被告商社」といいます。）を被告として、平成17年10月から平成20年2月末までに、保険会社および船会社等（以下「原告ら」といいます。）が、それぞれ東京地方裁判所に訴訟を提起しました。

その後、平成19年9月から平成20年3月末までに、国内販売したメーカーとして、当社を被告とした訴訟の総額約12億円とする訴訟が東京地方裁判所に提起されておりました。

被告商社の訴訟については、平成22年7月東京地方裁判所で、原告らの請求を棄却する判決、平成25年2月28日には東京高等裁判所で原判決（原告らの請求棄却）の変更があり、「被控訴人、各控訴人に対して、全体（計5件）で約886百万円の認容額（元本）及びこれに対する平成16年10月20日から各支払済みまでの年5分の割合による金員を支払え」との判決がありました。被告商社は、判決を不服として、最高裁判所に上告しております。

一方当社を被告とする裁判は、平成25年5月27日に東京地方裁判所にて判決の言渡しがあり、原告の請求を棄却する判決が下されました。当社は、本判決は妥当なものであると考えておりますが、原告らはこれを不服として、平成25年6月11日に東京高等裁判所に控訴を行っており、現時点では訴訟全体の帰結につき予測することはできません。

訴訟の推移によっては当社の経営成績に影響を及ぼす可能性はありますが、現時点ではその影響は不明であります。

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
従業員給与	106百万円	112百万円
賞与引当金繰入額	27	31
退職給付費用	14	11
役員退職慰労引当金繰入額	6	5
研究開発費	137	32

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	970百万円	766百万円
現金及び現金同等物	970	766

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	21	2	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月30日 取締役会	普通株式	21	2	平成24年9月30日	平成24年12月7日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	化成品事業	環境関連事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	3,642	711	4,354
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	22	22
計	3,642	733	4,376
セグメント利益又はセグメント損失（△）	△483	13	△470

2. 報告セグメントの利益または損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額
および当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△470
セグメント間取引消去	7
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失（△）	△463

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	化成品事業	環境関連事業	計
減損損失	42	—	42

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	化成品事業	環境関連事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	3,607	637	4,245
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	16	16
計	3,607	654	4,261
セグメント利益又はセグメント損失（△）	△13	45	31

2. 報告セグメントの利益または損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額
および当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	31
セグメント間取引消去	2
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	34

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
（固定資産に係る重要な減損損失）
該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）
該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）
該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期 純損失金額（△）	△55円34銭	6円99銭
（算定上の基礎）		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額（△） （百万円）	△594	75
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純 損失金額（△）（百万円）	△594	75
普通株式の期中平均株式数（千株）	10,751	10,749
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要	—	—

（注） 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。また、当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、希薄化効果を有していないため記載しておりません。

（重要な後発事象）
該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月14日

ダイトーケミックス株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 増田 明彦 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 堀 裕三 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているダイトーケミックス株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ダイトーケミックス株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年11月14日
【会社名】	ダイトケミックス株式会社
【英訳名】	Daito Chemix Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役 執行役員社長 二 宮 榮 規
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役 執行役員管理部担当 永 松 真 一
【本店の所在の場所】	大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役二宮榮規及び当社最高財務責任者永松真一は、当社の第68期第2四半期（自平成25年7月1日 至平成25年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2【特記事項】

特記すべき事項はありません。